



# みずみどり

2022年 12月1日 第153号

発行：いたばし水と緑の会事務局

年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会  
<http://mizumidori2.eco.coocan.jp>

E-mail : [mizumidori@nifty.com](mailto:mizumidori@nifty.com)

〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 090-1423-9894

# 北区・子供の水辺で 「かい掘り」(注)

11月3日 北区子どもの水辺の会の湾処(わんど)のかい掘りを見学に行きました。

東京湾から20数キロの荒川沿いにある湾処に着いた時には、既に開放水路に定置網が、セット



されていました。まずは湾処に全員が入り、水面を叩いたりして追い込みをやり、定置網を引き上げ、網に入った魚やえびを子どもたちと一緒に、バケツに保護しました。

写真左：湾処のようす

驚いたことに、50cmのクロダイが紛れ込んでいました(写真右)。まさに海につながっている事が実感出来ました。

捕獲された生き物は、ボラ、モツゴ、ギンブナ、ヌマチチブ、マハゼ、シモフリマハゼ、カダヤシ、タイリクバラタナゴ、ライギョ、ブルーギル、スジエビ、テナガエビ、ヤゴ(ギンヤンマ又はクロスジ





ギンヤンマ)、モクズガニ、ドブガイ、マシジミ等、20種類近くが見られました(写真左は水槽の小魚)。引き潮に合わせて堰を開放して、かいぼり開始、エンジンポンプ3台と40mmホース4本で、足元の泥を放水しながら、浮き上がらせて、とんぼで掻き出す作業をやっていました。12時近くになって満ち潮が始まり、今日の作業は終了。この作業を4、5、6日までやるとのことでした。

私も、5、6日に、かいぼりのお手伝いに参加しました。胴長に着替えて、湾処に入りましたが、コ

ロナの影響で、4年間作業を中止していたため、かなり泥が堆積していて、泥に足を取られて、何度も尻餅をつく羽目になりました。2、3時間、ひたすら泥を掻き出す作業を繰り返し、やりましたが、完全には排出しきれず、今年は終了となりました。

11月から2月まで堰を開放しておく、鯉等の出入りも有るそうです。そして、再び2月に堰を設置して、元の湾処になるようです。幸い天気にも恵まれていい汗をかきました。

(山田 元一郎)



(注) ワンド(湾処、わんど)は、川の本流と繋がっているが、河川構造物などに囲まれて池のようになっている地形のこと。まっすぐな荒川本流につくられた入り江のような池(湾処)では、流れがおだやかになり、土砂がたまり、水草が繁茂し、魚が産卵できるため、多くの小魚がすんでいます。

写真上：荒川本流から湾処への引き込水路

### 北区・子供の水辺(最寄り駅は赤羽岩淵駅、赤羽駅)

整備にあたっては市民も参加。市民団体が中心になって、地域の子供も一緒にゴミ拾い、植生調査、観察会など続けられています。今回のかい掘り・魚調査には若い人や子供も達も大勢参加され、地域に根ざしたすばらしい活動でした。

# ドングリの森の自然の宝物を紹介します

## 10月23日、赤塚公園サービスセンター主催どんぐりまつりから

赤塚公園のテニスコート・野球場、噴水のある平坦な中央地区は、明るく広々として、子ども連れや、ウォーキングする人でいつも賑わっています。赤塚公園ができる前、ここは徳丸たんぼでした。たんぼがなくなって高島平団地になり、サクラやイチヨウやカツラが植えられた公園になりました。

高速5号線の南側は、武蔵野台地の崖につながる自然の森になっていますが、たいてい人は道路沿いの園路を歩きます。今回は自然の中に踏み込んで自然の宝物を探しましょう。

まず山道を登ります。赤塚公園には、このような都内とは思えない山道がいくつかあります。うれしくなりますね（右）。



登り初め、草刈をされた後だったので、今

時分咲く野菊やミズヒキ、イヌタデの花はあまり見られませんでした。「刈らないで下さい」の札が付いて刈り残されたヒヨドリジョウゴが真っ赤な実を付けていました。おいそですが有毒だとか。

お茶の花が咲いていました（写真左）。お茶は中国原産。農家が栽培した名残で自然の森でも見かけます。

山道なので道の両側は自然に育った木々の森です。大きなクヌギの木があり、丸いドングリが拾えたのですが、最近はあまり落ちていません。枯れたのか、3本が切られていました。

そして、すぐに開けた山の上に着きます。標高差15m位でしょうか。クヌギのドングリと松ぼっくりが少し落ちています。先に進みます。草刈りされてカタバミに覆われた地面すれすれに



小さな虫がチラチラ飛んでいます。大人は気づかなくても目線の低い小さな子ども達にはおなじみのヤマトシジミです。どこにでもあるカタバミの葉を食べる小さなヤマトシジミ、真冬以外はよく飛んでいるのを子ども達は知っています。明るい山の上の草地で、オンブバッタをつかまえた、トカゲがいた、セミの抜け殻・・・キチョウや、アカボシゴマダラ、蚊も出てきました。そしてコナラドングリが一面に落ちている明るい広場でドングリ拾い。ここには3本のコナラの木があります（写真左）。

さらに進むと日当たりがよい場所に植栽されたいい松林があり、松ぼっくりがたくさん落ちています。生産緑地の看板が立っている畑があります。徳丸たんぼはなくなり、台地の畑も少なくなりました。



左は畑とうしろの松林。下は松ぼっくり



### トウネズミモチ

中国原産のネズミモチなのでトウネズミモチと呼ばれます。木の実が黒く、ネズミの糞のように見えることが名前の由来ですが、ネズミの糞と言われても見たことないですね。トウネズミモチは大気汚染に強いので公園などに植えられ、大きな実をたわわに付け、それを野鳥が食べて糞と一緒にばらまくので、あちこちで増えています。この時はまだ緑色の実がブドウの房のようが垂れ下がっていて見事でした。



この実は中国では強壯剤とか。

### カヤの実

針葉樹の香りがしました。フィトンチッドです。見るとカヤの木があり、実が落ちていました（写真右）。



槇の木通りに出て、崖の下の道に戻ります。

### マント群落

崖の下から見ると、森はところどころクズなどのツル植物で覆われています。これをマント群落

といいます。ツルがはびこって森が荒れる、と思う人もいるかもしれません。下草を刈って薪や落ち葉を利用していた里山では、マント群落はありません。自然の森では、人間がマントを着て寒さから身を守るように、森の中に風が吹き込み、日光が直射して乾燥するのを防いでいる大切な群落です(写真左下)。マント群落は、崖下の所々に見られ、カラスウリの赤い実がぶら下がり、クサギの赤い実がのぞいていたりします。



崖下にはヤブツバキの群落があり、早春には花が見られます。今頃は、熟した実がはじけて、丸い種や殻が地面に落ちているのでは？

崖下はじめじめしていて、湧き水もできています。崖には自然の不思議がいっぱいです。

下：カラスウリの実



### シイの実を食べられる

崖の下にシイの木があり、下に殻をかぶった実が落ちていました。シイの実を食べられます。どんぐりまつりで

展示していたシイの実を「こうやって食べるのよ」と、割って食べて見せた女性がいたそうです。食べられる木の実があるなんてうれしいでしょう？ ドングリまつりの会場で「シイの木はどこにありますか」と聞かれました。中央地区(噴水のあるところ)にはありませんね。シイは赤塚公園の自然の森や、森の縁に生えていて、板橋区の潜在自然植生だと聞きました。鎮守の森や屋敷林など人間の干渉を受けない植生です。赤塚ため池公園の斜面樹林下で見られますが、つくられた公園や造成された高島平団地にはない木です(坂本 郁子)。

## トンボ池の今と、これからどうする??

ザリガニの根絶はむずかしいテーマです。投入する労力を考えると、いやになります。途中でやめるとザリガニの数はすぐに元にもどります。水の中に暮す生き物ですが、池の水を抜いて空にしても、雨も降るし、少々日照りでも土に潜って耐え、死滅することはありません。手強い相手ですが、ザリガニ駆除、やってみるしかない。ザリガニ釣りの応援もあって心強く、7月28日~9月22日の2カ月で捕獲数334匹。10月は66匹。冬になるとザリガニも巣穴や落ち葉の下に潜って、エサに寄りつかなくなります。

畦や岸には巣穴があり、肘まで手を入れてザリガニをつかまえたこともあります。奥深く、ザ



リガニに手が届かないので、穴に草を詰め込みます。真田さんはこうするとザリガニは出てこられないと言うので、なんでもやってみます。池に浮いている塩ビ管はザリガニトラップです。巣穴の代わりに潜り込んだザリガニがいることも。落ち葉の下にいるザリガニを落ち葉と一緒に掬ったり、やらないよりはマシ。  
春～夏にかけて日当たりのよいフェンス際と水際の草は頻りに刈り、今年は畦の草も刈りました。

自然の池だから何も手入れをしていないように見えるようです。ボランティアで大変だから、仕方がないよね、と言われてガクツ。気にならない人、どうでもいい人もいますが、池をちょっと見ていく人は多い。そして自然はいいですね、と言ってくださる人も一定数います。自然は美しいこともあるし、そうでもないことある。人の価値観どおりにいかないのが自然です。

でもそのままにしておくと、トンボ池は池でなくなるので、冬にはやはり湧き水の流入を止めて池を干し、ヘドロを掻き出さなければなりません。写真上のように畦は土が流れて壊れています。たんぼの畦直しは冬の季語。トンボ池の畦直しも冬の作業風景となります。かい掘り作業の準備として、掻出したヘドロを置くために池のまわりを刈りました。以前はヤブミョウガとササが多かったのですが、今年はキチジョウソウが増えています（写真右）。風土が変わってきたのでしょうか。



北区・子供の水辺のかい掘りの応援に行った山田さんに



指揮をとってもらって、かい掘りをして、畦の修理をします。素人集団です。ご理解と応援をおねがいします。

#### タコノアシに注目してね

20年以上前に戸田市の自然学習センターの池からもらってきた植物。すぐに消えてしまったのですが、今年フェンス際で白い花を咲かせました。秋になって紅葉し、茹で蛸の吸盤のような実ができています。絶滅危惧種です。20年たって突然出現し、花が咲き、実がなるなんて不思議です。

## 10月23日ドングリまつり会場での展示と「最近虫を見た？」アンケート



いたばし水と緑の会では、赤塚公園で拾ったモグラの死骸や虫（主に甲虫）の死骸、ドングリなどの木の種をいろいろ並べて展示しました。子ども達はモグラも、キラキラしたタマムシも、セミの死骸やセミの抜け殻も、なんでも触わります。



「最近虫を見た？」アンケートは、アゲハ、ヤマトシジミ、セミ（鳴き声も含む）、セミ抜け殻、トンボ）について、見たものに赤シール、見なかったものに青シールを貼ってもらいました。「ウソでしょ？」と思うほど、赤シールが多い。一瞬思い出してもらえたらというアンケートです。赤塚公園には生き物が多く、子ども達は虫を見えています。ここに遊びに来る子ども達は幸せですね。

## 観察記録（10月～11月）

トンボ池 ザリガニ、オンブバッタ、ハラビロカマキリ、イナゴ、ジョロウグモ、アキアカネ、カワセミ

バッタ広場 キタキチヨウ多、アカボシゴマダラ、コムスジ、ウラギンシジミ、ツマグロヒョウモン、セスジツユムシ、クビキリ、イナゴ、ナナホシテントウ、オオカマキリ、オオカマキリ卵、ハラビロカマキリ卵、ベッコウハゴロモ、エゾギクトリバ（？）、アミガサハゴロモ（写真右下、今年バッタ広場で3回見た。外来種もいるらしいが区別はわかりません）、ジョロウグモ、アキアカネ、斜面林にヒキガエル、



10月20日、日当たりのよいバッタ広場の東端、エノキの生垣にクズが被さり、セイタカアワダチソウが咲く茂みに、オオカマキリが何匹もいてびっくりしました。卵もいくつか生み付けられていました。

# 活動のお知らせ

活動の問い合わせ等は事務局 瀬田 090-1423-9894  
坂本 090-4618-1295

## 1 赤塚城址ちょっと観察と手入れ（第2日曜日）（どなたでも参加できます）

赤塚城址周辺は自然が豊かなところです。生き物達の環境を守る活動を体験しませんか。草や土に触って自然を感じてね。生きものは観察したら自然に返します。ササ刈り等の作業もやります（カマは用意します）。

12月11日（日）10:00～11:30

1月8日（日）10:00～11:30

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

参加費：無料（保険には加入していません）

もってくるもの：汚れてもよい靴と服装・手袋（軍手）、あれば図鑑、虫眼鏡など、

## 2 赤塚ビオトープ（赤塚トンボ池、バッタ広場）のがつつり手入れ（第4土曜日）

12月24日（土）10:00～11:30

1月28日（土）10:00～11:30

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

雨天の場合は中止（または翌日） 問い合わせは：事務局まで

汚れてもよい靴と服装で。作業手袋、

## 3 日暮台公園と樹林地の観察 日暮台公園前集合

1月 休みます

2月5日（日）10:00～11:30

### ●ビオトープボランティア大歓迎

いたばし水と緑の会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、ビオトープ（赤塚トンボ池と赤塚公園バッタ広場）などの観察と手入れ作業、日暮台公園自然樹林地の定点調査などを行っています。観察と手入れを通して、季節の変化や新しい発見があって楽しいですよ。ホームページ <http://mizumidori2.eco.coocan.jp>

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」（隔月発行）をお送りします（年会費2000円：振込先は表紙に記載）。

●身近な自然情報やご意見などをお寄せ下さい。